

平和のじをかけよう！

喜名小学校 四年組小湊 喜羽

「ちよっ とっわそうだなあ。」

五月三日、おじいちゃんとおばあちゃんと
三人で南風原町の「沖縄陸軍病院南風原ごう
群二十号」を見学した。そこは緑にかこまれ
たしずかな所だった。見学する人は、ヘルメ
ットをかぶりかい中電灯を持って中に入った。
岩をほってつくったごうの中は、とっても暗
くて少しじめじめしていた。

2

せんそう中、ごうの中では、けがのちりよ
うや手じゅつをしていたそうだ。わたしは、
ガイドさんの話を聞いてとてもびっくりした。
こんな暗い所なのに、ろうそく一本の明かり
でちりょうをしていたがらだ。とくにますい
もしないでやっ た手じゅつは、とてもこわく
てつらかっただろうなと思う。また、ごうの
中は、動くことのできない人のべんやによ
う血などのまじったにおいで、とてもくさか
たそうだ。そんなにおいの中で働いていたか

んごふさんやお医者さんは、何てがまん強いんだらうと思っただ。

かんごふさんは、けがのちりょうだけではなく食事を運ぶ仕事もしていたそうだ。「飯めいあげの道」というかた道三百メートルの坂道をおうふくした。

わたしも、おじいちゃんといっしょに「飯あげの道」をおうふく歩いてみた。まわりは草だらけでハブも出てきそうだ。それに、すべりやすくて、わたしも二、三度転びそうにな

なっ
た。

きつと、かんごふさんたちは、たおれそうになるくらいつかれていたと思う。でも、ねるのほかたい岩の上だった。まくらもふとんもなく、つめたい所でねむるなんてわたしにはたえられないと思う。

せんそう中、病気やけがをした人たち、お医者さんもかんごふさんも、「二度とせんそうをしたくない」とさげびたかったと思う。

でも、沖縄にはまだき地があるし、オスプ

レイも飛んでいる。わたしは、家に帰って、せんそうでなくなっ た人たちへのメッ セージを書いた。

「今日は平和じゃなくても、明日は、きっと平和になる。だって、どこかに、世界をつなぐ平和のじがあるから」。明日も、あさっても、平和のじでつなげるといいな。そうすれば、世界のみんなが手をつなぎ、助け合い、きっと、平和な世界がつけられると思うよ！」

お父さんは、今年も平和行進に出かけた。おじいちゃんは、昔の沖縄の様子をよく話してくる。家族みんなが、楽しくすごせるように平和な沖縄をつくりたい。